

第2回熊本地方会 活動報告

テーマ： 医師事務作業補助者に期待される役割
～withコロナ/働き方改革に向けて～

開催日時： 2022年6月25日（土）14:00-16:00

開催場所： 熊本機能病院 南館ホールよりZoom配信



開会挨拶

熊本機能病院 理事長 米満 弘一郎 先生

本日は、第2回熊本地方会が当院で開催されることになり非常に光栄でございます。web開催ということで、全国からご参加いただきありがとうございます。

天草地域医療センターの吉仲先生と谷田病院の高橋様からご講演いただき、事例発表として熊本リハビリテーション病院、熊本セントラル病院、宇城総合病院と熊本の病院から発表がございます。非常に勉強になる一日と思います。みなさま、本日は最後までどうぞよろしくお願い申し上げます。



講演1

『医師事務作業補助者はいかに医師の働き方改革に貢献できるか』

座長 片渕 茂 先生（朝日野総合病院 院長補佐）

講師 吉仲 一郎 先生（天草地域医療センター 院長）

厚生労働省が示した「平成30年版 過労死等防止対策白書」によると、医師事務作業補助者の普及後においても勤務医の約6割は、時間外労働の増加要因として「診断書やカルテ



<吉仲 一郎 先生>



<片渕 茂 先生>

作成の書類作成」を挙げています。医師事務作業補助者の配置は様々な負担軽減策の中でも効果が大きく、3年以上の実務経験を有する実務者配置でより効果が高いと示されています。今後、移管可能な業務は「検査手順の説明業務」や「電子カルテの記載」、「症例登録等の各種統計資料の作成」があります。施設調査では、医師事務作業補助者配置に関する課題として教育体制、業務範囲の明確化、雇用面が挙げられます。

研究会が作成したキャリアパスモデルのように教育が進められれば、優秀な医師事務作業補助者が育成され、さらなる医師の負担軽減に繋がっていくと思います。それぞれの施設で長く働いてくれる医師事務作業補助者を育てることが非常に重要だと思います。

病床回転率を高めざるを得ない現在の診療報酬体系では、医師の仕事もより忙しくなります。その背景と医師の働き方改革もあり、今後ますます医師事務作業補助者の必要性が増し、その存在価値が高まっていくと思われます。医師事務作業補助者の皆さんの業務は、医師が本来の専門職の資格を活かすことにも繋がり、医師の働き方改革を推進するうえで欠かせない重要な存在でございます。

講演2 『医師事務作業補助者から見る診療報酬改定について』

講師 高橋 直輝 様 (医療環境総研 (兼 谷田病院 医事課主任))

管理者は、本人がどういうキャリアを考えているかをしっかりヒアリングすることが一番大事です。当院では医師事務作業補助者を医療マネジメント職として募集し、医事課と総務課を最短6年、最長10年でのジョブローテーションを前提にしています。医事課を経験後、医療秘書にローテーションします。また希望により事務長に同行し理事会参加や銀行対応などOJTを受けることができます。その他にも他部署との業務調整や協力体制の構築を行い、他部署の負担軽減にも繋げようと考えています。医師事務作業補助者が抱える課題を解決するためには、事務部や看護部等他部署を巻き込んだ課題解決が必要です。毎月第4金曜日13:30-17:00 off-JTとして事務長が講師となり「コミュニケーション力」、「失敗を活かす」、「人を動かすリーダーシップ」、「タイムマネジメント」、「仕事を楽しくするために」など事例をもとに多くの視点を見つける機会を設けています。



事例報告 医師事務作業補助業務の紹介およびコロナ禍における自院対応等

コーディネータ 熊本県支部 副支部長 村上 美紀 (済生会熊本病院)

演者1 村岡 綾 様 (熊本リハビリテーション病院)

演者2 沢田 史子 様 (熊本セントラル病院)

演者3 高島 啓美 様 小竹 史恵 様 (宇城総合病院)

各医療機関から取り組みや工夫点、課題、COVID19対応などについてご発表いただきました。

工夫点としては、朝礼後の10分間を利用した勉強会の開催、日々終礼を行い、終礼での報告事項について掲示板掲載で課内の周知を図る、医師事務作業補助者複数で担当するなど、相互に業務補完ができるような体制の構築など取り組まれていました。また、産休・育休や有休を取得しやすい教育体制を整備されていました。

コロナ検査の代行オーダー入力、カルテ記載、コロナ陽性者との接触者洗い出し、診察室の清掃、医事課や病棟など関連部署への連絡、入院や手術延期に伴うオーダーの変更、ワクチン接種会場の事務的補助など多岐にわたる補助が行われていました。医師事務作業補助者に関する医師向けのアンケートで2022年は回収率100%、100%満足との回答を得られた医療機関さんもありました。

パネルディスカッションでは、外来診療補助や代行オーダー入力・代行記録に対する医師承認、診療情報提供書の作成、教育期間などについて活発に意見交換が行われました。

貴重な時間を共有でき、今後も情報共有しながら一緒に学び、質の高い診療支援に繋がっていきたいと思います。



閉会挨拶 熊本県支部 支部長 園田 美樹 (熊本医療センター)

吉仲先生からは、医師の働き方改革に対する実務者の貢献について大変詳しくご講演いただき、高橋様からは診療報酬改定や谷田病院さんでの取り組みについて、また3病院さんからは、それぞれ事例発表をいただき、ご参加いただきましたみなさまの実務により深みを増して活かしていただけたと思います。本日は大変お忙しい中、貴重な時間を割いてご参加くださいましたみなさま、誠にありがとうございました。

